

長岡中央総合病院 倫理委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	特殊体位手術時の圧抜きで行う反応性充血の予防 ～介助補助手袋（ビニール手袋）を使用した術前に行う圧抜きの有効性～
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
2022年4月1日から2023年4月1日までに呼吸器外科での側臥位手術、整形外科の腹臥位による脊椎手術、腹腔鏡下大腸手術での碎石位手術を行った患者様。	
③概要	
<p>新潟県厚生連長岡中央総合病院の手術室において呼吸器外科の側臥位による鏡視下手術、整形外科の腹臥位による脊椎手術、消化器外科の碎石位による腹腔鏡下大腸手術でベッドに接していた所に線状の皮膚の赤みがみられる症例がありました。発生要因として体位固定具による過度の圧迫やシーツによる皺が原因と推測しました。医師による手術体位固定後に介助補助手袋（ビニール手袋）を使用し圧抜きを行うことで、シーツや皮膚のずれによる皺を予防し、皮膚の赤みの発生を抑えることができると予測しました。</p> <p>上記手術を行った過去の症例より皮膚の赤みの発生状況を調査させていただきます。そして、今後実施する手術で介助補助手袋（ビニール手袋）を使用し圧抜きを行う事で、反応性充血が予防できるか検討を行います。</p>	
④申請番号	594
⑤研究の目的・意義	<p>この研究は手術の為に身体固定を行う皆さまを対象としています。身体を固定後、ベッドに接する身体の圧をなくすことで、皮膚のずれによるしわを予防し、圧がかかっていた場所へ一次的に発生する皮膚の赤みの発生をおさえることを目的としています。</p> <p>具体的には、手術の為に身体を固定後に介助補助手袋（ビニール製）を使用し、圧を抜き皮膚の赤みが抑えられるか検討させていただきます。</p>
⑥研究期間	2022年4月1日～2023年11月30日
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	<p>研究へのご参加・ご協力は皆さまの自由意志によるものです。お断りになる事ができますし、同意された後も途中で撤回することができます。その事により医療サービスに関して不利益が生じることは一切ありません。遠慮なく看護師にお伝えください。研究にご協力いただける場合は、個人情報個人が特定されないよう研究者のみが取り扱い、厳重に管理いたします。また、得られたデータおよび結果は研究の目的以外に用いることはありません。研究結果は、当院で行われる看護研究発表会で公表する予定です。</p>
⑧利用または提供する情報の項目	年齢、性別、身長、体重、BMI、手術術式、手術体位、手術時間、手術後の皮膚の赤みの有無・範囲・部位
⑨利用の範囲	厚生連長岡中央総合病院

⑩試料・情報の管理について 責任を有する者・連絡先	厚生連長岡中央総合病院手術室看護師長 杉本 紋子
⑪お問い合わせ先（照会先及 び研究への利用を拒否する 場合の連絡先）	研究責任者：浮須 春菜 新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院 手術室 〒940-8653 新潟県長岡市川崎町 2041 番地 電話番号 0258-35-3700